



Asflora-Instituto Amigos da Floresta Amazônica -アマゾン森林友の協会

<http://www.asflora.com>

Asflora は、2000年12月にブラジル国パラ州ベレン市に、社会公益活動をする団体（NGO）として登録、活動を開始しました。

世界最大の熱帯林と大河のある地域、「アマゾン」という言葉は、世界でも最もよく知られる言葉の一つです。このアマゾン地域に住む市民として、地元の熱帯林を知り、活かし、護るために何か役立つことをしたいという趣旨が、団体をつくった発端です。

ブラジルアマゾン地域の森林破壊のスピードは、最近は減ってきていると言われていきます。しかし、2007年8月-2008年8月の1年間、INPRE（ブラジル宇宙空間研究所）の発表では、11,968 k m<sup>2</sup>（秋田県は11,612 k m<sup>2</sup>）が喪失したとされ（誤差率4%）、前年度より微増（3.8%増）しています。更にこの間、森林の劣化（喪失ではない）も百万ヘクタール（10,000 k m<sup>2</sup>）以上も進んでいます。

アマゾン地域土地利用への規制は、8割を森林地として残し、2割のみが農牧地への転換に認められるというもので、農牧場主には厳しいものです。しかしその順守が現実には無理な面も多く、結果として、年間百万ヘクタールを超える森林喪失が進んでいるのが実情です。

貴重なアマゾン森林、生命の宝庫を失わないためには、政府の力に頼るだけでは不十分です。私ども非政府団体、市民が、裾野を広げて弛まらずに取り組んでいくべきことが多いと思います。

私共 Asflora では、地元の主に基礎教育課程（日本の小学生）の児童を主な対象にした、環境教育プログラムを組み、年間を通して実施しています。この中で、森の小道を歩きながら、観客と役者が一体になって演じられる「Asflora 森の劇」は、特に好評で、参加希望者が絶えません。

Asflora 森の劇団は、学生ボランティアによって演じられていますが、各種の催事会場などからも要請を受けて、広場や舞台での公演も行われています。

植樹活動は、以前そこにあった自然林に近い森の復元を目指しています。混植密植方式による植樹方式で、潜在自然植生の研究と世界中で植樹指導を続けておられる宮脇

昭先生のご指導を得て、1992年から当地でも始められたものです。毎年約8000本の苗木が、植樹祭を通して子供たちと共に植え続けられています。(三菱商事助成事業)

多くの森が焼き払われて、牧場や農場に転換されています。そして多くの水源林も危機に瀕していることが見かけられます。現状を嘆くだけでなく、地主の協力を呼びかけ、水源涵養に役立つ森作りの第一歩を踏み出す試みも始めています。(イオン環境財団助成事業)

2007年からは、ベレン市から近いサンタバルバラ郡内の零細農民、開拓部落の農民を対象にした、アグロフォレストリイ支援活動も始めています。焼畑による、森の消失も増え続けてきましたが、肥料も各種の苗木も零細な農民には手が届かないことがあり、年間を通してわずかな収穫物しか得られない現状を少しでも打開できる方法として、立体的な森林農業とも言えるアグロフォレストリイの導入支援を試みています。結果が出せるのはまだまだ先になることではしょうが、これによって森の維持に貢献し、零細農民の持続可能な農業モデルづくりを目指しています。(NPO 地球と未来の環境基金/緑の募金 助成事業)

私どもの活動の輪に、ぜひ、あなたもご一緒に加わっていただけることを、お待ちしております。

2009年8月31日

Asflora 代表 佐藤卓司

活動の本拠地：ブラジル国パラ州ベネビーデス市

Aimex 種苗センター内



2009年4月植樹祭にて